

ご挨拶

著者	馬瀬 良雄
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 6: 2-5(1992)
発行年月日	1992-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022388

ご挨拶

ことばの会誌第5号「日本語教育特集号」をお届けしてから長い時間が経ってしまいました。ようやく原稿がととのってここに第6号をお手許にお送りできる運びとなりました。今回はご覧のように若手研究者の論文が中心です。お読みのうえ、ご意見等いただければ幸いです。

第5号発行以後の本会の講演会・研究発表会の活動は次のとおりです。

第22回研究発表会

昭和62年12月6日(日)10時15分より

信州大学教育学部M311教室(音声言語実習室)

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| (1) 「ひくらし」考 | 小川 健二 (信州大学教育学部学生) |
| (2) 言語行動における日台比較 | 伊藤 祥子 (信州大学人文学部学生) |
| (3) 日中両国語条件表現の対照研究 | 劉 吉程
(信州大学大学院人文科学研究科学生) |
| (4) 養護学校における言語指導 | 小池 広志 (上田養護学校教諭) |
| (5) 方言の教育 | 青木 千代吉 (上田女子短期大学) |

第23回研究発表会 公開講演会

昭和63年7月31日(日)13時半より

松本市中央公民館4階

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| (1) 古辞書研究の方法—倭名類聚抄の「此間」の解釈— | 池田 証寿 (信州大学人文学部助教授) |
| (2) 方言の敬語—共通語化をめぐって | 馬瀬 良雄 (信州大学人文学部教授) |
| (3) ことばの表現 | 国広 哲弥 (東京大学文学部教授) |

第24回研究発表会

昭和63年12月10日(土) 13時より

信州大学教育学部M311教室(音声言語実習室)

- (1) 類義語「話す」「語る」「喋る」について
小島 洋子 (信州大学教育学部学生)
- (2) 福沢諭吉の「独立」「私立」の用法について
小林 左代子 (信州大学教育学部学生)
- (3) 場面によるアクセントの使い分けについて
—東京式アクセント地域と京阪式アクセント地域との比較—
黒田 恵 (信州大学大学院人文科学研究科学生)
- (4) 門南語を母語とする人達の日本語のアクセントの特徴について
張 雪玉 (信州大学大学院人文科学研究科学生)

第25回研究発表会のお知らせ

平成元年7月29日(土) 午前10時より

信州大学人文学部4番教室(講義棟3階)

- (1) 韓国における日本語学習者の日本語音声の特徴
吉良 篤子 (信州大学人文学部聴講生)
- (2) 台湾における日本語学習者の日本語音声の特徴
伊藤 祥子 (信州大学大学院人文科学研究科学生)
- (3) 助動詞タの一考察 —テンス・アスペクト・ムードの用法を中心として—
劉 文恒 (信州大学大学院人文科学研究科学生)
- (4) 敬語意識について —中学・高校・短大生の場合—
竹花 理恵 (会社員)
- (5) 文章表現の指導 —国語教育の立場から—
金子 泰子 (信州大学人文学部助手)

講演

日本語の現在 南 不二男 (文教大学教授)

第26回研究発表会

平成元年12月9日(土) 午後1時より

信州大学教育学部M402教室

- (1) 「こそが」の語法 金井 直樹 (信州大学教育学部学生)
- (2) 格助詞「に」について 倉石 めぐみ (信州大学教育学部学生)

講演

類人猿の「言語」研究とその言語治療への応用
小島 哲也 (信州大学教育学部助教授)

第27回研究発表会

平成2年2月10日(土) 午後1時より

信州大学人文学部会議室(研究棟2階)

- (1) 場面とことば—電話という場面を中心に—
戸叶 万里 (信州大学人文学部学生)
- (2) 外来語におけるアクセントの平板化について—高校生を中心に—
安平 美奈子 (信州大学人文学部学生)
- (3) 日本語を母語とする韓国語学習者の韓国語音声の特徴
崔 昇浩(信州大学大学院人文科学研究科学生)
- (4) 日中両語の移動動詞—「行く・来る」と“来・去”—
李 国防(信州大学大学院人文科学研究科学生)

第28回研究発表会 公開講演会

平成2年10月13日(土) 午後1時30分より

信州大学人文学部会議室(研究棟2階)

講演

- (1) 日本語の特色—連体修飾を中心に—
石神 照雄 (信州大学教養部助教授)
- (2) 方言研究とコンピューター
沢木 幹栄 (信州大学人文学部教授)

第29回研究発表会

平成3年2月2日(土) 午後1時より

信州大学教育学部音声言語実習室(M館3階)

- (1) 現代外来語の—考察—公文書を中心として
横地 里美 (信州大学教育学部学生)
- (2) 擬態語・擬声語について 橋爪 陽子 (信州大学教育学部学生)
- (3) 長野県のアクセントについて
荘 幼糸 (信州大学大学院人文科学研究科学生)
竹内 洋子(信州大学人文学部学生)
長山 昌子(信州大学人文学部学生)

講演

抄物と接続用法

清水 登 (長野県短期大学)

第30回研究発表会

平成3年10月26日(土) 午後1時より

信州大学人文学部会議室(研究棟2階)

- (1) 国際化時代の日本語 安平 美奈子 (NHK放送文化研究所)
- (2) 日韓両国語の対照研究—「タ」に対応する韓国語の形式の分類—
崔 昇浩 (名古屋大学研究生)
- (3) 破格的可能形式の実態—来レル・見レルなどの言い方について—
出野 憲司 (伊那西高等学校教諭)

講演

漢字字形の正・通・俗 池田 証寿 (信州大学人文学部助教授)

なお、本年度の第2回研究発表会は都合により来年度に延期することとし、なるべく早い時期に行うこととなりました。この点ご了承下さい。

会員の皆さんのますますのご健勝とご発展をお祈りいたします。

1992年3月19日

長野県ことばの会代表理事

馬瀬良雄